



Title	汚れた雪の結晶の変形
Author(s)	小島, 賢治
Citation	低温科学, 6, 167-167
Issue Date	1951-03-31
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/17494">http://hdl.handle.net/2115/17494</a>
Type	bulletin (article)
File Information	6_p167-167.pdf



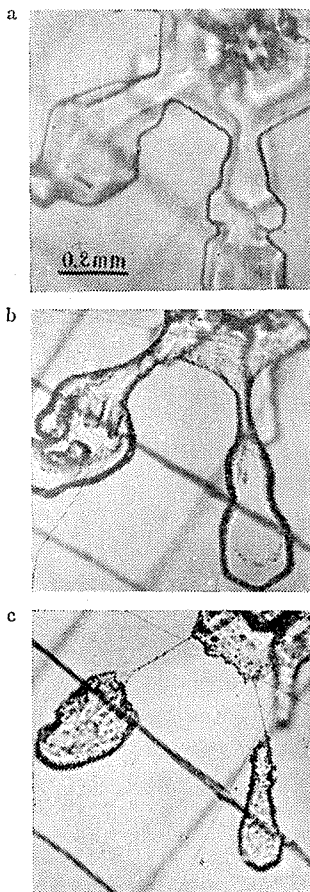
[Instructions for use](#)

## 汚れた雪の結晶の變形

小島賢治

(低温科学研究所 応用物理学部門)

(昭和25年10月受理)



ふつてきたばかりの雪の結晶を絹のせんいの網にのせて、それが変形してゆくようすを顕微鏡で観察したが(本誌第5輯の“吉田順五,小島賢治:雪の結晶の變形”参照),観察したたくさん結晶のうち,変形が進むにつれて表面に汚れがでてくる結晶がときどきあらわれた。汚れは,はじめはまったくみえないのである。結晶になにか溶けこんでいて,結晶が蒸発するにつれてそれが表面に集まるようになるのだと思われる。汚れのでる結晶のうち,図版の写真abcに示したようなものがあつた。六花型の結晶で,はじめ写真aの形のもの,その枝が細つて消えてしまつたあとに,写真cにみられるような細い糸をのこした。このように場合によつては,汚れのもとになる物質が,写真cの糸になることもある。この糸は張力をうけていたらしく,結晶の枝の先に残つていた水が蒸発してなくなつてしまつたら,直線から波形に形をかえた。後に残つた糸の太さは,直径凡そ $3\mu$ であつた。

(文部省科学研究費による。)